

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102898
法人名	株式会社 ケアセンターとかじ
事業所名	グループホーム 清風
所在地	松山市味酒町1丁目9番地15
自己評価作成日	平成27年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の利用者の状態に合わせて支援の工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●母体病院が訪問診療で診てくれる。状態変化等は、FAXで知らせて指示をもらったり、病院の看護師が来てくれ医師に報告してくれる。母体病院が24時間対応してくれることは、ご家族の安心感につながっている。年1回、ご家族が医師と面談する機会がある。専門医の受診には、入院等以外は職員が付き添い支援している。

●旅行が趣味で、若い頃にハワイ旅行をされ「もう一度行きたい」と希望する方があり、実現できるよう支援したケースがある。職員は、日常の中で筋力や健康の維持向上ができるよう、介護計画に採り入れて支援し、ご家族は、まず国内旅行をためし、その後、ハワイ旅行に出かけた。その折には、事前に主治医に「情報提供書」を出してもらい、職員は薬やケアポイント等を書いて渡して支援した。又、旅行中は、毎日メールで連絡し合い、無事に旅行を楽しみ、ご本人は満足されたようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大に増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム清風

(ユニット名)

4階

記入者(管理者)

氏 名

阿部真之介

評価完了日

27年 8月 31日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			声を出して確認し、共有の理念のもと実践につなげている。	
			(外部評価)	
			2年前法人でつくった「誠実、信頼、発展」という理念を事業所にも掲げている。理念は、毎朝の朝礼時に唱和して共有できるよう取り組んでいる。理念とともに基本方針を提示し、又、各ユニットで目標を立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域活動(運動会・文化祭・防災訓練・地域の清掃など)に積極的に参加。又、管理者は味酒地区の体育協会に入っており、地区の行事では役員として参加。準備から実行まで関わっている。秋には地方祭のお接待に力を入れ、入居者様と一緒にもてなしている。	
			(外部評価)	
			地域の町内会からは、運動会や敬老会等、行事案内があり、職員は準備等から積極的に協力して、利用者が参加できるように支援している。管理者は、地域の役員も引き受けたことがある。秋祭り時には、神輿が事業所前まできて、利用者は、子ども達にお菓子を配ったり、一緒に写真を撮ったりして楽しんでいる。事業所の前にある公園の掃除を職員が行っている。地域の集会所で「介護教室」を開催して「介護保険について」や「オムツの当て方」等について、職員が説明したことがある。調査訪問当日は、町内会長が地域行事の案内に来ていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議などで活動の報告や情報交換を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			2か月に1度開催し、地域や行政の方にも参加して頂き意見交換。その後のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議は奇数月の第2火曜日18時から行っており、自治会長や市の職員、地域包括支援センター担当者の参加がある。ご家族には口頭や電話で案内しているが、出席には至っていない。会議では、利用者の生活の様子やレクリエーション、研修受講状況等を報告している。自治会長からは、地域行事の情報を教えてもらっている。現在、ご家族が会議議事録を見るようなことはないようだ。	管理者は「ご家族にも会議に参加して、意見や要望を言ってほしい」と思っている。ご家族に会議内容を報告する等しながら、会議の意義や目的を知ってもらったり、参加しやすい日時等を聞きながら取り組みに工夫してほしい。さらに、いろいろな立ち場の方の参加を働きかけて、事業所サービスへの意見を聞いてほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束廃止の勉強会および話し合いを行い職員全員の周知の徹底、廃止に向けてケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			職員は、内部研修で勉強して、拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所は、2, 3, 4階にあり、利用者が出て行くときには職員と一緒にエレベーターを使用している。車椅子からずり落ちる方があり、ご家族と相談して食事時、ご本人の納得のうえ短時間のみ安全ベルトを使用しているケースがある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会、研修への参加を積極的に行っている。新人研修の際にも虐待予防のマニュアルから話している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会、研修への参加し活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明し納得していただき、同意を得た上で署名、捺印を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談窓口を設けており、その旨を施設内に掲示している。又、契約時にもその旨を説明しており、外部に苦情相談先も説明している。家族の来訪時に近況報告と共に意見や要望を確認している。 (外部評価) ご家族来訪時には、職員は笑顔で迎え、利用者の様子を報告しながら、ゆっくり話を聞くようにしている。毎月、ご家族に送付する書類の中には、利用者の日常生活の様子を書いた手紙と写真を1枚同封している。ご家族からは「様子がわかりありがたい」と好評のようである。現在、家族会はなく、ご家族同士が話したり交流したりする機会は少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日常的に話をしながら行っている。	
			(外部評価)	
			月一回ユニットごとに職員会議を行っており、必要があれば 職員から出た意見をリーダー会や代表者会で話し合っている。毎月、内部研修を行っており、リーダー・新人・中間職研 修等、職員の段階に応じた研修を受ける仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			日常的に職員と接し、適時アドバイスをしている。又、その際 モチベーションの上がるような話をし、職場環境・条件の整 備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会や外部の研修に積極的に参加し ている。会社内では、入社時の新人研修を行い、定期的に 内部での研修も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			現在、相互研修はしていないが、地域密着型サービス協会 の研修や交流会、グループホーム研修や地域包括の研修 などで交流している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			努めている。入居前に面会し、ご本人様だけでなく、ご家族 様や介護サービスの担当者とも話し合い、その上で、安心し て入居していただけるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 努めている。ご家族とよく話し不安や要望などには具体的な ケアの内容の説明。安心して頂けるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 気持ちや体調を考慮し、要望に応えられるよう努力してい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 全員ではないが、一緒に洗濯などの家事を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 散歩や買い物、病院受診時にご家族に同行して頂いたり、 食事の介助などもして頂いている。又、電話での会話など協 力しながら、ご本人様を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 地方祭や法事などに親戚との食事会、外食にも出かけてい る。 (外部評価) ドライブの際に利用者の元職場に立ち寄ったことがある。職 場の方は利用者のことを覚えていてくれて、利用者はとても 懐かしがり喜ばれたようだ。ご家族に年賀状を出すのを希望 された方には、年賀状を準備したり投函して支援している。 居室が親族の集まり場所になっており、利用者を中心につ ながりがあるような方もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個別に信頼関係が築けている方も多く見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した際、お見舞いに行ったりしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 馴染みの生活を継続していけるように支援している。	
			(外部評価) 日々の生活の中でゆっくり話を聞き、利用者の思いや意向の把握に取り組んでいる。元農家の人には、収穫や農作業等のお話を聞いている。ご家族から「以前はよく絵を描いていた」と情報を得て、「〇〇さんの描いた絵を見てみたい」とクレヨン等の絵の道具を準備すると絵を描かれて、その後も気が向いた時に描いているようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員で情報を共有して把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日細かく記録して把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月1回職員によるモニタリングを行い介護計画にも取り入れている。また、拘束などの検討も行っている。	
			(外部評価)	
			ケアマネジャーは、「利用者の楽しみは何か」「どう過ごしたいか」「困っていることは何か」を主に考えて介護計画を立てるよう努めている。モニタリングは、月1回職員で話し合ったり、ご家族に聞きながら行っている。旅行が趣味で、若い頃にハワイ旅行をされ「もう一度行きたい」と希望する方があり、実現できるよう支援したケースがある。職員は、日常の中で筋力や健康の維持向上ができるよう介護計画に採り入れて支援し、ご家族は、まず国内旅行をためし、その後、ハワイ旅行に出かけた。その折には、事前に主治医に「情報提供書」を出してもらい、職員は薬やケアポイント等を書いて渡して支援した。又、旅行中は、毎日メールで連絡し合い、無事に旅行を楽しみ、ご本人は満足されたようだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			毎日細かく記録に残し介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人、ご家族の要望に沿って対応し取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地方祭などで地域交流を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			戸梶内科との連携ですぐに対応できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			母体病院が訪問診療で診てくれる。状態変化等は、FAXで知らせて指示をもらったり、病院の看護師が来てくれ医師に報告してくれる。母体病院が24時間対応してくれることは、ご家族の安心感につながっている。年1回、ご家族が医師と面談する機会がある。専門医の受診には、入院等以外は職員が付き添い支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			施設内の看護師資格を持っている職員と、戸梶内科の看護師と連携し支援している。	
33	12	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			御利用者が入院時に必要なものを用意し、早期退院できるようにサマリーなどの情報交換をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			主治医、御家族と密に連絡を取り合いながらチームとして支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(外部評価)	
			入居時、「重度化・看取りに関する指針」についてご本人とご家族に説明し、状況変化時には、医師、ご家族、職員で話し合い方針を決めている。現在は、多くの利用者ご家族が最期まで事業所で過ごすことを希望している。事業所は、これまでも看取り支援の経験があり、新人職員が夜勤を担当する際には、ユニット責任者も同行して職員の負担軽減に配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			事故発生時のマニュアルを作成し周知している。定期的な訓練をし、個人がしっかり身につけ、実際に発生した時は、対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			火災発生時などの対応訓練、消防立会いのもと防災訓練を定期的に行っており、マニュアルに基づいて実施している。又、地区や町内会の訓練にも参加している。	
			(外部評価)	
			年2回は、消防署の協力を得て法人全体で防災訓練を行っている。地域の方にも声掛けしており、参加がある。職員の中に、防災士資格を持つ方が3名おり、地域の防災訓練にも参加している。臨時に抜き打ちで訓練を行い、時間を計る等して普段から災害対策に意識して取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			当施設の理念のもとご利用者様の立場にたった対応をしている。	
			(外部評価)	
			利用者は人生の先輩であり、「上から目線」にならないように言葉遣い等に気を付けている。利用者の呼び方は、「○○さん」と姓を呼ぶようにしており、昼食時、「○○さんは、きいろがお似合いですね」と職員が利用者の洋服の色について感想を言うと、ご本人はにっこりとうなずき、他利用者も笑顔になった。居室やトイレのオムツの置き場所、排泄物の処理についても、プライバシーの観点から配慮が必要と感じるようなところが見られる。この機会に方法等について話し合ってみてはどうだろうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			可能限り御利用者様の意向をくめるように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			職員のペースになりがちなどところがあるが、利用者様の意向 を聞き取り入れる様に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)	
			一部のご利用者様には着衣交換時に意向を聞き、一緒に準 備しているが、意向が聞けないご利用者様に対しては、前日 とは服の種類や色などがかぶらないように考慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			食事時には民謡、演歌などの音楽を流すようにしている。職 員も一緒に食事をとり、利用者に声掛けを行っている。	
			(外部評価)	
			職員の人手不足により、今年6月から平日の昼食のみ「配食 サービス」を利用している。朝・夕食と日曜日は事業所で食事を 作っている。食材は注文して配達してもらっている。調査訪問 時、昼食の前には、職員がメニューを紹介して、みんなで「いた だきます」と挨拶し食事していた。お箸が持ちにくい方には、ス プーンに補助具を付けて、ご自分の力を使って食べられるよう 声かけや見守りして支援していた。利用者の誕生日には、リクエ ストメニューにし、職員手作りケーキでお祝いしている。又、年2 回市内のホテル等で外食を楽しむ機会を作っている。	利用者は「配食よりも手作りの方がおいしい」と言われるよう だ。管理者は「職員が揃えば手作りに戻す予定」と話してい た。職員も「事業所で手作りたい」と話していた。利用者が 食事を通じて力を発揮したり、食事を楽しみにできるような取 り組みの工夫が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			食事や水分の摂取量を細かく記録し、バランスが保てるよう 支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			義歯の洗浄をしたり、口腔内の届かない部位は職員が介助 し、口腔ケアをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			一定の時間で声掛け。又、訴えのあるときにはその都度対応をしている。	
			(外部評価)	
			排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声かけを行っている。入居間もない頃、トイレで排泄する時に下肢の痛みを訴えていた方があったが、歩行練習等のリハビリを行うことでトイレに座るのが容易になったようなケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			起床時の水分補給を勧めたり、日中は散歩に出かけたりし、体操など体を動かしたり、予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			意向を開けない利用者様が多く、曜日などの予定表を組み、入浴(シャワー浴)介助を行っている。入浴を強く断られる利用者様がおられると、日にちや午前午後を入れ替えるなど行い、週2回は入浴(シャワー浴)を行っていただけるよう支援している。	
			(外部評価)	
			午前と午後にお風呂を準備し、利用者の希望の時間に入れるよう支援している。ひとりで湯船に入ることが難しく、シャワー浴で対応していた方がいたが、「湯船に浸かりたい」とご家族に話されたのを聞いて、以前利用していた法人デイサービス職員の入浴支援の方法を参考に、湯船で温まれるよう支援している。現在、週2回入浴を支援しており、ご本人は、湯船にゆっくり浸かって「ようしてもろうて、もったいない」と言われ、満足されているようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			御利用者様の希望に応じ、居室に案内している。更衣や消灯などの介助を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報を日頃から職員の一人一人が確認しており、御利用者様の体調の変化に気付けるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 新聞を読まれたり、TVなど趣味を楽しまれる時に、さりげなく声掛けなど行い、気分転換などの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月一回はドライブレクで遠出をしたり、御家族様と外出や外食も多い。 (外部評価) 近所の公園に毎日散歩に行かれる方がある。公園では、近所の方がグランドゴルフをしているのを見学したり、春には桜を楽しんだり、遊びに来ている子ども達とふれ合う等して過ごしている。新聞チラシを見て、ほしいものがあれば歩いて買い物に出かけている。月一回、ドライブできるよう計画しており、道の駅や道後等へ出かけている。介護度が重度で車での外出が難しい方には、お天気の良い日に屋上で外気浴し、気分転換できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の利用者様は月一回のドライブレクに出かけられ、職員と一緒に買い物を楽しんでいただけるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時に連絡が取れる体制をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節によって壁の絵や玄関の小物を変えて、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			事業所は2, 3, 4階に位置しており、エレベーターを降りるとユニットの入り口があり、下駄箱の上には栗や紅葉を飾っていた。居間の入り口は和風のしつらえになっている。居間では新聞を読んだり、テレビを観たり、利用者同士が歓談していた。テーブルや洗面所には彼岸花等を生けていた。居間の壁には利用者が描いた絵が飾ってあった。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			鏡台や机、布団など馴染みのある品物を持ち込んでいただき、今までと同様の生活ができるように尊重している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			ベッドは備え付けで、布団や枕は個々が持ち込んでいる。昼食後にベッドに横になってテレビを見ている方がいた。旅行が趣味の方は、旅行の写真を拡大して壁に貼っていた。ご家族が用意したお人形に名前を付けてベッドの枕元に置いている方があり、就寝時には一緒に布団で寝かせるようだ。若い頃取得した生け花の許状を飾っている方もある。掃除は日に一回、職員が行っている。職員が声をかけて一緒に掃除するようなこともある。利用者が居間で過ごす間は、窓を開けて換気している。	